

葛山城址の支障木伐採、遊歩道の下草刈り





葛山ハイキング



# 芋井歴史講座

## ～葛山ハイキング～

秋の葛山で自然を感じましょう!!

開催日 令和5年10月29日(日)

日 程 9:00 芋井公民館 集合

10:30 歴史講座(葛山山頂・本丸跡広場)

講師:大日方邦忠氏(芋井の歴史を学ぶ会顧問)

11:40 芋井公民館 解散

定 員 20名(先着順)



参加費 無料



持ち物 水分補給できるもの

※芋井公民館～釜(往復)はマイクロバスで移動します。

※当日は、動きやすい服装でお越しください。

お申込み 芋井公民館の窓口、または、電話・FAX・E-mailでお申し込みください。



共催:葛山夢(ドリーム)プロジェクトチーム

お申込み・お問合せ先

芋井公民館 TEL:235-5778

FAX:262-1184

E-mail: imoi-k@sunny.ocn.ne.jp

茅井歴史講座

# 葛山ハイキング



令和5年10月29日(日)

長野市立茅井公民館

葛山夢(ドリーム)プロジェクトチーム

# 葛山

## 1、葛山城

### イ、本丸

口、北尾根、二の丸・蔵屋敷（4か所）・入口に善学寺があった。

今も焼けたコメなどが出る

ハ、東尾根、斥候場、15間四方で六条の空堀、連続畝状堅堀群、

長野県内の城の中で特出すべきものである。それを過ぎる

と、からめ手遺構、馬場、二重堀がある。（往生寺方面に）

ニ、西尾根、追手道遺構（本丸から三条の堀を経て二ヶ所の曲輪を

中心に階段状の曲輪（平地）がある。

ホ、南側、旧静松寺方面への道があり、小さな曲輪（平地）など

がある。

### ヘ、姫谷、

## 2、登山道

### ○、葛山登山道（合戦頃）

イ、新諏訪―頼朝山（寺）―葛山（戸隠古道・境の沢より）

ロ、荒安―笹峯―葛山（しぐれ沢・七曲り経由）

ハ、往生寺―郷路山―葛山

ニ、戸隠古道塩畑から―牛首―葛山（旧静松寺脇から） 大手道

### 3、葛山城は

イいつごろできたか？ 落合氏が地頭として岩戸に入り建武年間

（1334〜37年頃）に築城その後弘治元・1555年上杉氏

が整備拡大した。（弘安8・1285年説もあるが）

ロ、合戦落城は、弘治3・1557年2月（新暦3月）馬場信房隊

は、二手に分かれ、大手口と富田口から攻めたといわれる。

（別説、山県昌景隊は頼朝山の南を廻り西側の大手口方面から、

栗田鶴寿隊は往生地口から攻めた。また、長坂虎房隊は後方拠点

の本拠地岩戸から戸隠、鬼無里方面まで攻めたという説も。・）

ハ、合戦前後、戦いは乱取りと云って「殺し尽す・奪いつくす」と

いう戦法だったので、住民はいち早く他方へ逃げたしまった。そ

のためこの地区の人たちは元亀年中頃まで皆他地区へ逃げしま

い、荒れはててしまったので、信玄は特例（3年間諸役無しとし

て）をもって帰還を促した。

ニ、葛山衆のたどった道 武田氏が天正10年に亡び（滅亡後の残

ったメンバーは桜・立岩・上野・鱧・上坂・上ヶ屋・徳間）あと

織田氏の家臣森長可の配下になり、信長の死後は上杉景勝の家

臣になり、慶長三・1598年、秀吉の兵農分離政策（北信地方

の武士25名）により米沢へ移り、直江兼続の配下になりました。

その中で、格段の出世をした立岩喜平衛（上杉家の金山奉行など）

桜敦負（公事吟味役）がいます。末裔の人達は、現在も各方面で

活躍しています。

4、葛山衆で地元に残った百姓衆6名は、鱧方面に残り土地を平等

に分けて生活をし、以後の芋井の基礎を築きました。

百姓として鱧方面に残った人達の石高（麻場明彦氏調べ）

重右衛門 麻場長男 33石1斗

弥惣右衛門 麻場正則 33石1斗

又助 上原虎雄 36石8斗

庄八 不明 36石8斗

彦左衛門 小林常男 36石8斗

孫左衛門 竹内功一 36石8斗

5、現在葛山城址は、麻場長男さんたちのご努力によって整備されています。特に斥候場には、6条の空堀があり「畝状阻礙」と云い、県内でも珍しい城跡が残っています。

しかし、明治時代の終わりごろには、葛山の本丸など平地は農地として利用されていたようで、当時芋井の住人で、アララギ派の歌人内田花人（平の内田義久）さんの歌に

芋井の城跡葛尾山城あと開け桑植えぬ老松一つくしくのこりて  
という歌があります。城址は昭和56年市指定の文化財になっている。また四阿は昭和49年に建設されました。

6、信玄の書状（静松寺への書状（これぞ信玄の調略か？））

落合遠江守・同三郎左衛門はもとからの志を変えず、こちらに忠信をつくすといっている由、まことに感じ入りました。たとえ惣領二郎左衛門尉がこ

ちら（武田）へ属しても、

前の二人をよく待遇します。この趣をよく御

連絡ください。

三月十一日 晴信花押

静松寺

落合遠江守の書状をよみしに  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは  
信玄の調略か？と云ふは

三月十一日 晴信花押

静松寺

静松寺は、弘治3年に武田隊により全焼しました。（もし静松寺が武田氏に従属していたならば、武田氏は即刻寺の復興に取り組んだと思われるが？）  
○、なお、静松寺には落合備中守の位牌や、備中守夫人の着衣と守仏釈迦像も同様納められている。

清浄院殿光山勇仙大居士（落合備中守治吉の戒名）（誰が戒名つけたのでろうか？）

○、落合氏は建武年間（1334〜37年頃）入部して、葛山落城が弘治3・1557年なので、その間の年数が約220年ほどになる。一代30年として7代ほどになると思われるが、備中守以外は知られていません。

出身地は佐久市落合と云われ、木曾義仲の臣落合五郎兼行と云う説が有力です。他に落合藏人泰宗・落合対馬守氏行などの記載もあります。そして二代目以降も名前が解らず、落城時の城主が、落合備中守次郎左衛門尉治吉である事が唯一わかる名前です。いずれにしても、落合氏についてはわからないことが多く謎に包まれています。

○、葛山衆末裔の、立岩寧氏、徳間友五郎氏、上野幸至氏、鑪雄一氏からの史料があると「落合備中守顕彰会々報葛山」書かれています。実物はどこにあるのでしょうか？ 探したいです

落合氏の系図 (その一つ)

海野信濃守

海野左京太夫小太郎幸邑

海野左京太夫信義

川中島住

上ヶ屋左近太夫信房

信州小鍋住

海野小次郎幸仲

滋野幸直

信利 桜藪負助

幸利 上野新三郎

幸信 落合伊豆守

隆利 鑓孫左衛門

信家 織部正 丹波島住 喜四郎

幸晴 舎捨助 信州松久保住 立岩彦四郎

幸太 落合若狭守 信州楡木住

幸是 徳間玄蕃允 徳間氏



長野市芋井

かつらやま

# 葛山城跡



## 葛山城

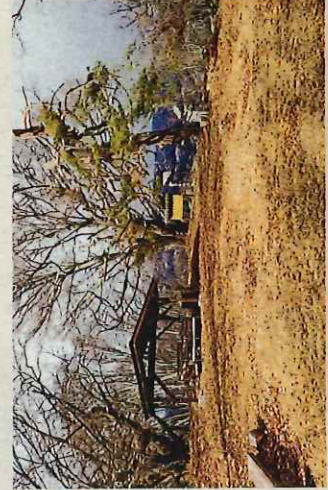
平安末期から鎌倉初期に、落合、小田切、香坂、春日など滋野系武士団が佐久地方より地頭として西山中に入部し、山一族衆と呼ばれた。落合衆は善光寺、戸隠、越後へ通じる要衝芋井岩戸地区に居を構え葛山に城を造った。

葛山城は、弘治元年(1555年)の第2回川中島合戦のとき、武田信玄の旭山城に対抗して、上杉謙信が整備拡大したといわれている。

第3回川中島合戦の弘治3年(1557年)2月15日(太陽暦3月26日)、武田はその2年前に上杉と和を結んでいたが、それを破りしかも上杉が雪で動けないこの時期を狙って葛山城を攻めた。

西山の豪族の多くが武田に与する中、降伏を勧めた武田の策略に応じなかった葛山城主の落合備中守をはじめ、援将吉窪城主小田切駿河守や城兵は奮戦したが城はついに落城した。

哀れを極めたのは城内で逃げ場を失った女たちで、多くは峰の上から身を投げた。この谷は姫谷と呼ばれている。



本丸跡(山頂)

弘治3年(1557年)2月15日落城。



アルプス

アルプス展望台からの眺望。



姫谷

落城の際、女たちが身を投げたと地元で伝わる谷。



堀切

本丸付近には旭山城と対峙する東側に9条、西側にも3条の堀切がある。



旭山

本丸からは武田方の旭山をみることができる。

